



むらさき朝会「物を大切にしよう」

本日5(木)は、むらさき朝会でした。今月の生活目標は「🍎物を大切にしよう」です。私の方からは、次のような内容を話しました。日本人は、物を大切にする文化があります。例えば、針供養では、使えなくなった縫い針に感謝の気持ちをこめて寺社に納め供養し、裁縫の上達を願う行事です。他にも、人形供養や刃物供養、それに筆供養など様々な物に感謝する風習が日本各地で行われています。

それは、日本人の精神の中に、「川、山、道具、家など、全ての物に神が宿る(八百万の神)」として、崇める風習が根付いていったからです。皆さんが見たことがある映画「千と千尋の神隠し」でもそのことがうかがえます。また、海外にはない「もったいない」という言葉は、訳すことができないそうです。これは「ありがたき命が生かされず、ムダになってしまうことが惜しい」と捉えることができます。

この素晴らしい日本人の心はどこから始まったのでしょうか?それは、縄文時代に遡ることができます。縄文の人たちは、土器などの道具を大切にしていました。それは、自然の恵みから作った物を大切にしないと、生きていけなかったからです。縄文時代を大昔の暮らしと侮ってはいけません。そこには、おしゃれな装飾品や、アーティスティックな土器、さらには食生活も豊かで、とてもグルメ家だったこともわかっています。この縄文時代は、約1万年以上も続き、一つの時代がこれほど長く続いたことは世界でも例がないと言われています。この時代がこれほど続いたのには理由があります。それは、①みんなで協力して生きていたこと ②争いがなく、平和な社会だったこと ③物は、森や川、海など自然の恵みと考え大切にしていたことなどが挙げられます。一方で、現代社会は様々な職業があり、その仕事の対価としてお金を得ます。そのお金で生活に必要な「物」を買うのです。時代は違えど、物は地球からの恵みなのです。歴史はただ知識を学ぶことではありません。過去の出来事をこれからに生かすことに意味があります。今回の日本人の精神性から次の3つのことを生かすことができそうです。①物への感謝 ②「もったいない」を大切にする ③物を大切にすると仲間を大切にする の3つです。特に3つ目をもう少し説明します。皆さんの教室の床の上に物が落ちていることはありませんか?校長先生の経験上、物がたくさん床の上に落ちている学級は、少し人間関係が気になる学級が多いようです。つまり物を大切にできない人は、周りの友達も大切にできないことが多いのです。学校のトイレのスリッパも然りです。スリッパが散乱している学校は、次に使う人のことを思いやれていなかったり、自分勝手な人が多かったりする傾向があります。

例えば6年生の人で、筆箱を6年間使っている人はいませんか?(Zoom上で手を挙げてもらい、筆箱への思いを語ってもらいました)このように、皆さんも物を大切に、「もったいない」を意識して、ケンカやもめごとがなく、安心して暮らせる学校にして欲しいと思います。

